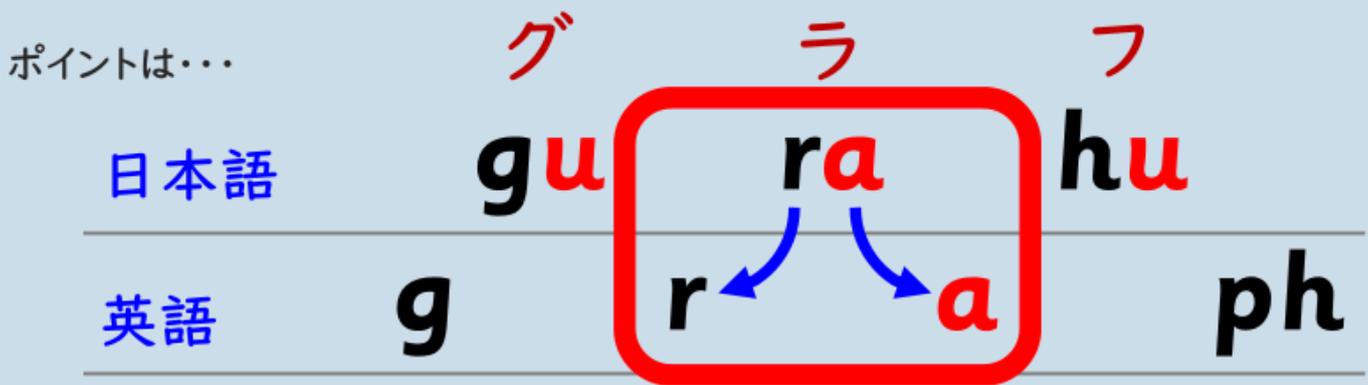


## 日本語と英語の「音」



①日本語の「1音」は母音がくっつく

②英語は子音+母音でも2音になる

→ 音の構造や単位が違うから、英語にカナはふれない  
(カナをふると日本語読みになってしまう)

【補足】 DVDには含まれていませんが、トレーニングでは日本語と英語の音について、その違いをもう少し詳しく学んでいます。次の表もその一部です。

## 日本語と英語 - 文字と音

日本語		英語
ひらがな、カタカナ、 漢字、ローマ字	文字	アルファベット
ひらがな・カタカナ 各 46 字 常用漢字 2136 字	文字の数	大文字・小文字 各 26 字
拍 <b>mora</b> (母音+子音) 「グ・ラ・フ」	音の 最小単位	音素 <b>phoneme</b> (母音 or 子音) 「g, r, a, ph」
110 音 前後 さ、しゅ、など(子音+母音)で一音	音の数	44 音 前後 s, a, sh, ay (など子音 or 母音だけ)で一音
5 個 あ、い、う、え、お	母音の数	17~19 個 a, e, i, o, u, ai, ee, ie, oa, ue など
1 個 単独で存在するのは「ん」のみ	子音の数	25 個 前後 「s, t, p, n, c, k, h, r, m, d, g, l, ...」

# シンセティック・フォニックスの長所

## アナリティック・フォニックス

知っている単語の中の音を

**構成単位に分割**  
(= **Analyze**) して

「文字 (綴り) と音の関係」を **学ぶ**

- **A, B, C, D,...**  
アルファベット順に
- 大文字と小文字を **同時に**  
または **大文字から**
- エイ ... ア、ア、ア  
文字の名前と音を **同時に**
- アルファベット **26** 文字と音を  
習得後、残りの音は **一旦留保**
- 結合する目的ではないので、単語を  
読む練習は **行わない** ことが多い

## シンセティック・フォニックス

構成単位の音 (音素) の  
「文字 (綴り) と音の関係」を **学んで**

**それらを結合**  
(= **Synthesize**) して

単語を **自分で読み書きする**

- **s, a, t, i,...**  
**読める単語が増えやすい順に**
- 英文のほとんどを占める  
**小文字から**
- 文字の **音だけ** を指導  
(名前は後のタイミングで)
- 英語の **44** の音と文字 (綴り) を  
**最初の段階で学ぶ**
- **3 文字学習した段階から** すぐに単語  
を読む練習を始める

## 国語の文字指導

### ひらがな

- 清音 (つ、く、し)
- 濁音 (ば、ざ、が)
- 半濁音 (ぱ)
- 拗音 (きゃ、しゅ、によ)
- 促音 (いった)
- 長音 (びょういん、おとうさん)
- 助詞 (「は」「へ」「を」)

### カタカナ

### 漢字

- 頻出、音訓
- 同音異義語 (花と鼻)
- 特別な読み方 (昨日)

## シンセティック・フォニックス

音と文字の対応: 44 音 26 文字

(44 種類の綴り)

- s の音は /s/ (ス)、a の音は /a/ (ア)  
(一文字一音⇒文字の音をくっつけて  
単語として読む)
- th, ch, ng など二文字で一音になる子音
- ai, ie, oo など二文字で一音になる母音
- 文字名前

### 同音異綴り

### ひっかけ単語

- the, is, he などフォニックスで  
読めない単語

# ジョリーフォニックスとは？(構成)

体系的にシンセティック・フォニックスを身につけるための**教材群**

子ども自身の得意な感覚を使って学習できるよう

(アクションやお話などといった単独要素ではなく) **多感覚**を活かした**指導方法**

● 読み書きの基礎となる  
文字(綴り)と音の関係を  
3つの領域に分けて指導する

- 1) 42の文字(綴り)の音  
(42 Letter Sounds)
- 2) 同音異綴り  
(Alternative Spellings)
- 3) ひっかけ単語  
(Tricky Words)

英語のこぼのきまりを学ぶ前に作る、英語の読み書きのための土台部分

Kagako Yamashita

## ジョリーフォニックス 42音の授業の教材

主要教材	はじめてのジョリーフォニックス	Teacher's Book & Student Books	The Phonics Handbook
流れ	<p>ティーチャーズブック    スチューデントブック</p>	<p>Teacher's Book    Student Book</p>	<p>The Phonics Handbook</p>
1. 復習	○ (Flashcardsのみコピーして作成可)	× Flashcardsが必要	○ (コピーして作成可)
2. お話	○ A5縮小版が付録	× Finger Phonics (Big Book) 1~7が必要	× Finger Phonics (Big Book) 1~7が必要
3. アクション	○	○	○
4. 文字(綴り)の練習	○	○	○
5. 音の聞き取り	○ 音声CD付き	○ (音声なし)	×
6. ブレンディング	○ 音声CD付き	○ (音声なし)	○ (Fourth Edition以降 / 音声なし)
7. セグメンティング	○ 音声CD付き	○ (音声なし)	○ (Fourth Edition以降 / 音声なし)
おまけ. 歌	○ (付録CD内)	× Jolly Songs (CD or App)が必要	× Jolly Songs (CD or App)が必要
備考	多感覚を確実に無理なく取り入れつつ、流れに沿って基本の42の文字(綴り)の指導ができる。日本語話者用。Pupil Book 2, 3の部分が未完。東京書籍に続編の要望を!	多感覚を確実に無理なく取り入れつつ、流れに沿って基本の42の文字(綴り)の指導ができる。Flashcards, Finger Phonics, Jolly Songsとあわせて使うとよい。	1冊でさまざまな用途に対応でき、コピー用資料も豊富。低年齢向け。汎用的な分、指導者の作業は多くなりがち。指導順が前出の2つと多少異なっている。

※ 英語にはUS版とUK版が、また文字書体にはブロック体(print letters)と半筆記体(pre-cursive)のものが用意されているものもある。

# ジョリーフォニックス 42 音の授業の流れ

文字の 順番 流れ	s	a	t	i	p	n
1. 復習	×	s	s, a	s, a, t	s, a, t, i	s, a, t, i, p
2. お話	へビの出す音	アリを振り払う声	テニスボールの音	ネズミが嫌がる声	ろうそくを消す息の音	飛行機が飛んで行く音
3. アクション	○	○	○	○	○	○
4. 文字 (綴り) の練習	○	○	○	○	○	○
5. 音の聞き取り	○	○	○	○	○	○
6. ブレンディング	×	×	at, sat	it, sit	pat, pip, pit, sap, sip, tap, tip	ant, in, nap, nip, pan, pant, pin, snap, snip, span, spin, tan, tin
7. セグメンティング	×	×	at, sat	it, sit	sip, tap, pat, pit など	pan, nap, pin, ant など
おまけ. 歌	○	○	○	○	○	○

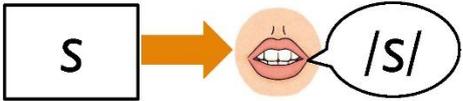
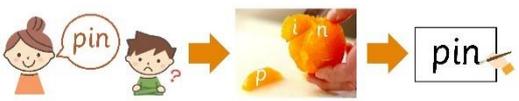
## ジョリーフォニックスの 5 つの基本的な技能



基本の 42 の「文字 (綴り) の音」「同音異綴り」「ひっかけ単語」でジョリーフォニックスの 5 つの基本的な技能が身につく。

1. 文字の音を覚える	42 Letter Sounds	Alternative Spellings
2. 文字の形を覚える	42 Letter Sounds	Alternative Spellings
3. ブレンディング	42 Letter Sounds	Alternative Spellings
4. 単語の中にある音を識別する (セグメンティング)	42 Letter Sounds	Alternative Spellings
5. ひっかけ単語を正しくつづる		Tricky Words

# 基本の 42 音の授業の中の 4 技能!

基本技能	説明・特徴
<p style="text-align: center;"></p> <p><b>1. 文字の音を覚える</b></p> <div style="border: 1px solid orange; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>1) s a t i p n                  2) c/k e h r m d                  3) g o u l f b                  4) ai j oa ie ee or                  5) z w ng v oo oo                  6) y x ch sh th th                  7) qu ou oi ue er ar</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文字の「_____」ではない</li> <li>abc 順でなく、「_____」順に学ぶ</li> <li>アルファベット _____ 文字だけでは英語の音を網羅することはできない</li> <li>文字の名前は _____ の修了後</li> </ul>
<p><b>2. 文字の形を覚える</b></p> <p style="text-align: center;"></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文字の _____ は手本を見せる 空書きの際には子どもたちから見て正しく見えるように鏡文字で</li> <li>_____ から指導する</li> <li>_____ も指導する</li> <li>_____ は 42 音の修了後</li> <li>_____ も 42 音の終了後</li> </ul>
<p><b>3. ブレンディング</b> 文字(綴り)の音を結びつけて単語にすること</p> <p style="text-align: center;"></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「_____」を発音し、その音をくっつけ(ブレンディング)て、かたまり(単語)として読む</li> <li>「一つの音」と「かたまり」をくっつけるのではない</li> </ul>
<p><b>4. 単語の中にある音を識別すること(セグメンティング)</b></p> <p style="text-align: center;"></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>最初は、学習する音が単語のどこにあるのか聞き分ける</li> <li>聞いた単語を一つ一つの音に _____ し(セグメント)て、それを文字で表す。</li> </ul>

## 42 音の授業の流れのポイントとその目的

	ポイント	その目的
1. 復習	● 余分な説明は入れず、 <b>テンポよく</b>	ウォーミングアップ、記憶の定着につながる
2. お話	● 対象の「音」を <b>お話の中に何度も</b> 入れる ● しっかりと <b>絵を見せる</b>	音と絵・話・イメージとが結びつく ⇒ 音の想起につながる
3. アクション	● 対象の「音」を <b>声に出しながら</b> アクション ● <b>お話と結びつくよう</b> に説明	音とアクション・話とが結びつく ⇒ 音の想起につながる
4. 文字(綴り)の練習	● ホワイトボード、空書きなど、 <b>さまざまな方法で</b>	体を使った多感覚(触覚、運動感覚) ⇒ 文字の形を認識する
5. 音の聞き取り	● <b>文字を見せず</b> 、 指の動きや区切った発音で指導する	文字を使わず音进行操作 ⇒ 音韻認識を高める
6. ブレンディング	● 手や腕、音ボタンなど <b>さまざまな方法</b> を使って、それぞれの音をくっつける	文字を見て自分で音を想起し、それをくっつける ⇒ 文字と音の操作の力をつける
7. セグメンティング	● 単語を音素に区切って発音したり、アクションや絵を使ったり、 <b>さまざまな方法</b> を使う	聞いた音を文字で表す ⇒ 音から文字への操作の力をつける
おまけ: 歌	● <b>聞く箇所を明示</b> して、聞かせる	学習する「文字(綴り)の音」に集中する ⇒ 音を聞く力を養う

Kayoko Yamashita

## 42 Letter Sounds 基本の 42 の文字(綴り)の音

1) s a t i p n  
 2) c/k e h r m d  
 3) g o u l f b  
 4) ai j oa ie ee or  
 5) z w ng v oo oo  
 6) y x ch sh th th  
 7) qu ou oi ue er ar

## Tricky Words ひっかけ単語

- 1) 単語を見る
- 2) Letter name で言ってみる
- 3) Look, Copy, Cover, Write, Check で単語を覚える

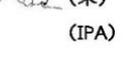
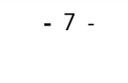
\* ジョリーフォニックスでは右の 72 個の単語をひっかけ単語として取り上げています。  
ジョリーフォニックスに登場する単語の中にはこれ以外にも is や as などといったひっかけ単語と思われるものも登場しています。(日本語版ではそれらも整理される予定です。)

 <p>日本語版では is も含む</p>	1. I	5. me	9. to			
	2. the	6. we	10. do			
	3. he	7. be	11. are			
	4. she	8. was	12. all			
	13. you	2 p.4	17. said	2 p.13	21. go	2 p.21
	14. your	2 p.4	18. here	2 p.13	22. no	2 p.21
	15. come	2 p.8	19. there	2 p.13	23. so	2 p.21
	16. some	2 p.8	20. they	2 p.17	24. my	2 p.24
	25. one	2 p.24	29. like	2 p.32	33. little	2 p.40
	26. by	2 p.24	30. have	2 p.32	34. down	2 p.40
	27. only	2 p.28	31. live	2 p.36	35. what	2 p.44
	28. old	2 p.28	32. give	2 p.36	36. when	2 p.44
	37. why	2 p.47	41. any	3 p.3	45. other	3 p.11
	38. where	2 p.47	42. many	3 p.3	46. were	3 p.11
	39. who	2 p.47	43. more	3 p.7	47. because	3 p.14
	40. which	2 p.47	44. before	3 p.7	48. want	3 p.14
	49. saw	3 p.17	53. would	3 p.21	57. goes	3 p.24
	50. put	3 p.17	54. right	3 p.24	58. does	3 p.28
	51. could	3 p.21	55. two	3 p.24	59. made	3 p.28
	52. should	3 p.21	56. four	3 p.24	60. their	3 p.28
	61. once	3 p.32	65. of	3 p.36	69. after	3 p.40
	62. upon	3 p.32	66. eight	3 p.36	70. every	3 p.45
	63. always	3 p.32	67. love	3 p.40	71. mother	3 p.45
	64. also	3 p.36	68. cover	3 p.40	72. father	3 p.45

## Alternative Spellings 同音異綴り

### 基本の綴り

/ai/		ai	(rain)
/ee/		ee	(tree)
/ie/		ie	(pie)
/oa/		oa	(soap)
/ue/		ue	(rescue)

/ou/		ou	(cloud)
/oi/		oi	(oil)
/er/		er	(winter)
/oo/		oo	(moon)
/or/		or	(fork)
/ol/		ol	(fox)

(IPA) 

### ジョリーフォニックスの同音異綴り

a_e	(make)	ay	(tray)	ea	(read)
e_e	(theme)	y	(happy)	igh	(high)
i_e	(like)	y	(fly)		
o_e	(smoke)	ow	(snow)		
u_e	(tube)	ew	(few)		
ow	(owl)				
oy	(boy)				
ir	(bird)	ur	(purple)		
u_e	(rule)	ue	(blue)	ew	(flew)
aw	(raw)	au	(fault)	al	(all)

Student Book/Pupil Book でのみ紹介される

/air/	air	(chair)	ear	(bear)	are	(spare)
-------	-----	---------	-----	--------	-----	---------

## 多感覚を用いた指導

『文字(綴り)と音』の関係を指導するときに、様々な感覚機能を多角的に使用する。



● visual (視覚)

● tactile (触覚)

● auditory (聴覚)

● kinaesthetic (運動感覚)



※ただし、複数の感覚を同時に刺激するアクティビティーは難易度が高くなるため注意が必要。



- ✓ アクティビティーが多岐に渡るため、飽きがこない  
(ただし、アクティビティーは「楽しくする」ことが目的ではなく、  
『文字(綴り)と音の関係』を身につけるためのものに限る。)
- ✓ 学習者の得意な感覚からアプローチできるので、定着しやすい  
(学習者側はすべてのアプローチを行う必要はなく、見ているだけでもよい。  
指導者側はすべてのアプローチを提示する必要がある。)
- ✓ 特別な支援を必要とする子どもまで含め、高い効果が上がる  
(例:ディスレクシアを持つ子どもは音韻処理能力が低いとされているが、  
それ以外の感覚を用いることで音韻処理能力の弱さをカバーできる。  
例:学級にいるすべての子どもたちが得意な部分を使って学習できる。)

## 授業の流れ

1 セッションごとに1つずつ音を導入し、定着させていく。

1. 復習 ..... フラッシュカードでテンポよく
  2. お話 ..... 話をする前に文化などの短い説明(異文化)、  
話の中で今回学習する「音」をたくさん入れる
  3. 音とアクション ..... 話から自然な流れでアクションに結び付ける
  4. 文字の書き方 ..... 空書き、ホワイトボード、紙、なぞり書き
  5. 音の聞き取り ..... どこでその音が聞こえたか
  6. ブレンディング ..... 2音単語⇒3音単語⇒4音単語⇒5音単語
  7. ディクテーション ..... 読み上げた単語を書く
- おまけ. 歌 ..... CDなどで歌を聞く(音韻意識、アクション)

指導者側は1~7を必ずすべて行う。順番の入れ替えやアクティビティーの追加は任意で。  
受講者側は見ているだけでもよい。受講者に強制すると逆効果になることもあるので注意。

常にこの流れを意識しながら、授業案を作成し、授業を行います。

## 授業の流れの中の「多感覚」

- 視覚  ● 聴覚  ● 触覚  ● 運動感覚  ● その他
1. 復習 …… 文字を見る、アクションを行う → 発音する
  2. お話 …… イラストを見る、キャラクターを探す、お話を聞く、音を聞く、パペットに触れる、楽しむ、異文化を想像する、イメージをつかむ
  3. 音とアクション …… アクションを行う → 発音する
  4. 文字の書き方 …… 説明を聞く、触る、イメージする、空書き → 文字を書く
  5. 音の聞き取り …… 音を聞く
  6. ブレンディング …… 文字を見る → 発音する、読む
  7. ディクテーション …… 音を聞く、目で確認する → 発音する、文字を書く
- おまけ. 歌 …… 歌を聞く、リズムを取る、アクションを行う → 発音する
- 4種類(+α)の「多感覚」を必ずまんべんなく取り入れる

## 「多感覚」授業のポイント

- 指導者は多感覚を提供 → **必ずすべての**アクティビティーを!
- 受講者は**見ているだけでも** → 強要しない
- アクティビティーの**入れ替え・追加は任意**で
- ブレンディング・セグメンティングは**シンセティックの手法**を
- ジョリーフォニックスを**楽しむこと**

常に1レッスンの中で複数の「多感覚」が提示されていること。  
例えば「この子は耳から入るから」と思った場合でも  
他の感覚機能も多角的に使用できるよう「多感覚」を必ず提示する。

**子どもが学べる可能性は常に提示しよう**

# まとめ

## ジョリーフォニックスの役割

ジョリーフォニックスで、壁はここまで低くなり、子どもたちは自分で読み、書けるようになる!

1) 42の文字(綴り)の音  
 2) 同音異綴り  
 3) ひっかけ単語

これらすべてを含めたものがジョリーフォニックス!

「文字(綴り)と音」の関係を理解し、覚える

(基本の42音、同音異綴り、ひっかけ単語)

これを覚えることが目的  
ではありません

「文字(綴り)と音」の関係を理解し、覚える

(基本の42音、同音異綴り、ひっかけ単語)

+

「文字(綴り)と音」を操作する力を養う

ここで  
基本の音を身につけながら、  
英語の綴りを自分で読み書きできるようにすることが大切

その  
操作も並行して身につけて、

- 小文字と音素から負荷なく
- 多感覚を使って定着しやすく
- 決まった授業の流れで混乱なく
- 反復学習による無理のない定着

➔

- 読める/書ける**楽しさ**を体験
- 自分にもできるという**自信**